

設計課題 「健康づくりのためのスポーツ施設」

I. 設計条件

この課題は、中核都市の市街地において、健康づくりのための温水プールのあるスポーツ施設を計画するものである。本施設は、ライフステージに応じたエクササイズ等を提供することで、高齢者、身障者等を含む様々な世代の地域住民が、体力の維持・向上を図ることができるものとする。

- ① 良好な周辺環境を積極的に活用するとともに、環境負荷低減のため、パッシブデザインを積極的に取り入れるものとする。
- ② プール室及びトレーニング室の空調設備は、外気を温湿度調整して居室に送風する単一ダクト方式とする。

1. 敷地及び周辺条件

- (1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、右図のとおりである。なお、敷地の南側に城跡・堀、西側に公園があり、景観は良好である。
- (2) 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- (3) 敷地は、近隣商業地域及び防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は80%（特定行政庁が指定した角地における加算を含む。）、容積率の限度は400%である。
- (4) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- (5) 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。
- (6) 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。

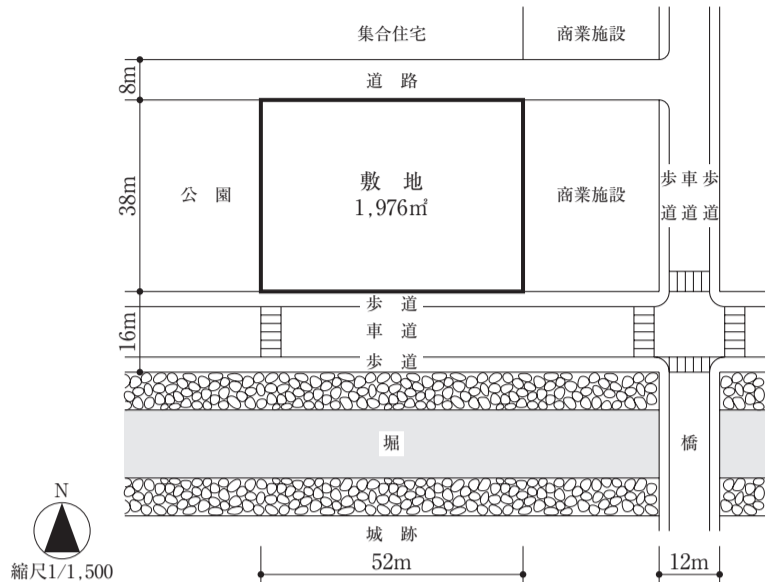
2. 建築物

- (1) 構造、階数等
構造種別は自由とし、地下1階、地上3階建ての1棟の建築物とする。
- (2) 床面積の合計
地下1階を除く床面積の合計は、2,500㎡以上、2,900㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- (3) 要求室
下表の室は、全て計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
・設備スペース以外は、1階～3階に計画する。 ・屋内プール部門及びトレーニング部門は、有料とする。			
屋内プール部門	プール室	・プールは、長さ20m、幅8m、最深1.2mとする。 ・天井高(天井のない場合は、はり下端までの高さ)は、20mプール上部の高さを6m以上とする。 ・屋外休憩テラスと一体的に利用できるようにする。 ・採暖室(約20㎡)及び器具庫(適宜)をプールサイドに設ける。	約400㎡
	更衣室(1)	・男性用、女性用として2室(約80㎡/1室)及び車いす使用者用として1室(12㎡以上)を設ける。 ・ロッカー、洗面台、シャワー、便所を設け、車いす使用者用更衣室には、洗面台、シャワー、便器を設ける。 ・プール室と更衣室(1)との間の動線は、他の動線と交錯しないように計画する。	計約172㎡
トレーニング部門	トレーニング室	・各種運動器具を利用して、トレーニングを行う。 ・天井を張るものとし天井高は、5m以上とする。 ・室の辺長比は1.5以下とし、無柱空間とする。	約300㎡
	器具庫	・トレーニング室から直接利用するものとする。	約30㎡
	スタジオ	・ダンスやヨガ等を行う。 ・壁の一面に鏡を設ける。	約80㎡
	更衣室(2)	・男性用、女性用として2室(約40㎡/1室)及び車いす使用者用として1室(12㎡以上)を設ける。 ・ロッカー、洗面台、シャワー、便所を設け、車いす使用者用更衣室には、洗面台、シャワー、便器を設ける。 ・トレーニング室及びスタジオの利用者が使用する。	計約92㎡
ヘルスケア部門	セミナー室	・教室型とし、40人程度が利用できるようにする。 ・スポーツ・健康に関する講習や講演等に利用する。	適宜
	健康相談室(1)(2)	・2室設け、スポーツや健康に関する相談や助言を行う。	適宜
	体力測定スペース		50㎡以上
	ラウンジ	・ソファ、テーブル及び自動販売機を設ける。 ・城跡・堀の景観に配慮する。	約80㎡
	図書・資料コーナー	・パソコンによる情報検索もできるものとする。	適宜
	セミナー控室	・セミナー運営関係者の控室とする。	適宜
共用・管理部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・1階から3階の空間の連続性を考慮した吹抜け(40㎡以上)を設け、梁は設けない構造計画とする。 ・談話ラウンジを設ける。	適宜
	カフェ	・40人程度が利用できるようにする。 ・厨房、カウンター、テーブル、椅子等を設ける。 ・外部からも直接利用できるものとする。	適宜
	スポーツショップ	・スポーツ用品の販売を行う。	約70㎡
	観覧用ギャラリー	・施設利用者がプールを観覧できるようにする。	適宜
	マッサージ室	・受付を設け、料金の徴収等を行う。	約40㎡
	受付	・受付カウンターを設け、施設利用者の入退館の管理及び有料部門の料金徴収を行う。	適宜
	事務室	・5人分の事務スペースを確保する。 ・職員の更衣・休憩スペースを含む。	適宜
	ミーティングルーム		適宜
	医務室		適宜
	指導員更衣室	・男性用、女性用として2室を設ける。	計25㎡以上
設備スペース	スタッフ控室	・従業員及び指導員等の控室として利用する。	適宜
	電気室、機械室	・地下1階に計画し、受変電設備、熱源設備、水槽類、ろ過機、ポンプ等を設ける。	適宜
	空調機械室	・設置階は自由とし、空調機械室、屋外機器置場等を計画する。	適宜
・便所、従業員等の出入口、倉庫(備品庫等を含む)及びゴミ置場については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室、什器等は、適宜計画する。			

3. その他の施設等

- (1) 「屋外休憩テラス」をプール室と一体的に利用できるように計画する。また、地上又は2階床レベルに計画し、まとまったスペースで50㎡以上(上部に屋根又は、上階がある部分を含めてもよい。)を確保する。
- (2) 敷地内の駐車場は、地上に平面駐車とし、車椅子使用者用として1台分、サービス用として3台分(計4台分)のスペースを設ける。なお、利用者・職員等の駐車場は、近隣の公共駐車場を利用するものとし考慮しなくてよい。
- (3) 敷地内の駐輪場は、利用者用として20台分を設ける。
- (4) (1)～(3)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。



II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、建築計画、構造計画及び設備計画において留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(スパン割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積 ニ. 設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]、煙突の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース ヘ. 延焼のおそれのある部分の範囲(破線で図示する) ト. 断面図の切断位置 チ. 開口部に設ける防火設備等(ダンパー類を除く。)の種類(答案用紙Ⅰに記載の凡例にしたがって図示する) リ. 1階又は2階の屋外休憩テラスの面積、テーブル、いす等 ス. 要求室の特記事項に記載されている室、スペース、什器等
(2) 2階平面図 1/200	② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 地階部分の位置(点線で図示し、床面積を記入する。) ハ. ドライエリアの位置 ニ. 駐車場及び駐輪場(台数及び出入口を明示する。) ホ. 通路、植栽等
(3) 3階平面図 1/200	③ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離 ロ. 1階の屋根、ひさし等となる部分 ④ 3階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離 ロ. 2階の屋根、ひさし等となる部分
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、プール室を含み、建築物の全体の立体構成及び屋根形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高並びに1階床高及び主要な室名を記入する。 ④ 基礎、壁、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

- (1) 建築面積を記入し、その算定式も記入する。
- (2) 地上1～3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- (1) 建築計画について、次の①～④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 良好な周辺環境を活用した計画について、考慮したこと
 - ② ゾーニング及び動線計画において、考慮したこと
 - ③ セキュリティについて、考慮したこと
 - ④ 防火区画(面積区画・堅穴区画)の計画について、特に考慮したこと
- (2) 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① プール室の上部(屋根又は床スラブ)構造の「部材の断面寸法」並びに、「構造種別・架橋形式」及び「スパン割り」について考慮したこと
 - ② トレーニング室の天井等落下防止対策について考慮したこと
- (3) 設備計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 設備スペース及び設備シャフトの配置計画について、配慮したこと
 - ② 地震等の災害に対する設備計画について、「設備の損傷防止」、「停電」及び「断水」のうちから二つ選択し、対応策を記述すること(停電や断水は3日程度を想定する。)